東公民館

いきいきまさきっこボランティア

▶鶴寿荘に遊びに行きました（2月22日）

▶自由な発想で絵手紙（2月22日）▼

▼みんなで楽しくドミノ！（3月8日）

松前町教育委員会では、ボランティア活動支援センター「いきいきまさきっこボランティアセンター」を開設し、事務局を東公民館に設置しました。

町内6校の小・中学生に「ちょっとしたボランティア」への参加を呼びかけたところ、現在約30名の参加者があり、活動を始めたところです。

2月22日（土）、北伊予小学校の児童10名で、鶴吉の鶴寿荘を訪問しました。デイケアで訪れていたお年寄りの方々と一緒に絵手紙を描く練習をしました。

子どもたちは、初めての体験にもかかわらず、のびのびと絵筆を動かし、先輩格のお年寄りもいろいろとアドバイスをしながら、実に和やかな雰囲気でした。

子どもたちは、お年寄りの人たちとすぐ仲良しになり、楽しく絵手紙を描くことができました。

また、3月8日（土）、岡田小、松前小、岡田中、北伊予中学校の児童生徒13名で鶴寿荘を訪問しました。

この日は、みんなでワイワイ楽しくドミノをしました。とても和やかで、笑い声が絶えませんでした。

この様子は松前町のホームページでご覧になれます。ぜひ一度見てください。

なお、「いきいきまさきっこボランティアセンター」では会員を募集しています。

問い合わせ
東公民館
☎984―1159

人権・同和教育シリーズ 第245回

世界に一つだけの・・・

岡田小学校人権・同和教育主任　土居宣子

そうさ　僕らは
世界に一つだけの花
一人一人違う種を持つ
その花を咲かせることだけに
一生懸命になればいい

これは、最近よく耳にする「世界に一つだけの花」という歌の歌詞である。岡田小学校の「今月の歌」でもある。休み時間に、自然に歌っている子どもも見かけるようになった。大部分の子が、大好きだと言う。それは、やはり、子どもたちが、この歌の中にある思いを望んでいるからではないだろうか。

先日、体育の時間にキックベースをしたときのことだ。打順が何度回っても蹴ったボールが捕られてアウトになっていた女の子がいた。自分はボールを蹴るのが苦手だと言い、仕方なく参加しているように見えた。蹴ってもボールはほとんど飛ばない。でも、チームの子はあきらめずに、彼女にアドバイスし続けた。彼女も一生懸命にボールに向かった。でも、蹴ったボールは捕られてしまう。しばらくして、同じチームの男の子が、私の所に駆けてきて、

「先生、○○さんがヒットを打ったよ。」

と笑顔で伝えに来た。すぐに私も見に行くと、既にアウトになっていたのだが、彼女は、にこにこやって来て、

「先生、次は私ね、二塁に行けるように頑張ってみる。」

と。

そこには、本当にうれしそうな笑顔があった。一つのヒットに心から満足していた。一番にならなくても、特別な喜びがある。彼女のおかげで私もチームの子も感動した。

今の社会には、自分さえ、自分の地域さえ、自分の国さえよければいいという風潮がある。子どもたちのように、相手の立場を考え、互いに支え合うことで、はじめて自分・地域・国にそれぞれの花を咲かせることができるのではないだろうか。